

学校臨床心理学特論

担当教員 一牛田 洋一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

小・中・高等学校における臨床心理学的援助について、スクールカウンセラーの視点から、より実践的な介入方法について海外の実践報告も参照しながら検討していく。また、学校臨床における重要なテーマの一つである、学校での危機対応、緊急支援のあり方についても、その先進国である米国の資料も参考にしながら検討していく。その他、発達障害などの注目されている問題について事例を中心に検討もしていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (1)
3	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (2)
4	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (3)
5	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (4)
6	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (5)
7	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (6)
8	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL (7)
9	学校での危機対応SCHOOL CRISIS RESPONSE TEAM (1)
10	学校での危機対応SCHOOL CRISIS RESPONSE TEAM (2)
11	学校での危機対応SCHOOL CRISIS RESPONSE TEAM (3)
12	学校での危機対応SCHOOL CRISIS RESPONSE TEAM (4)
13	事例検討 (1)
14	事例検討 (2)
15	事例検討 (3)
16	試験

【履修上の注意事項】

英語の文献資料からレポートの作成をしていく機会が多くなるので、講義時には英和辞書などの準備は必携である。

【評価方法】

発表レポートの内容、発表内容に対するディスカッションへの参加、口述試験などから総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に印刷をして配布する資料を使用する。

【参考文献】

講義時に随時適切な参考文献を紹介していく。

グループアプローチ特論

担当教員 上田 幸彦、平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床の現場において、グループを扱えることは支援のための有効な武器となる。グループのダイナミックスを捉え効果的に介入することにより、グループメンバーの相互作用を最大限に支援に生かすことができる。この講義ではグループアプローチの中でも心理劇を中心としながらロールプレイングやソシオドラマあるいはSSTについても実習を交えながら学習する。実際にグループでの体験、ファシリテーターの役割を通じて、グループアプローチに関する理論と実際について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	集団心理療法の基礎①
3	集団心理療法の基礎②
4	対人交流を促すための集団心理療法①参加者体験
5	対人交流を促すための集団心理療法②参加者体験
6	対人交流を促すための集団心理療法③リーダー体験とスーパーヴィジョン
7	対人交流を促すための集団心理療法④リーダー体験とスーパーヴィジョン
8	言語のやりとりを中心とした集団心理療法①参加者体験
9	言語のやりとりを中心とした集団心理療法②リーダー体験とスーパーヴィジョン
10	言語のやりとりを中心とした集団心理療法③リーダー体験とスーパーヴィジョン
11	自己洞察を促すための集団心理療法①参加者体験
12	自己洞察を促すための集団心理療法②参加者体験
13	自己洞察を促すための集団心理療法③リーダー体験とスーパーヴィジョン
14	自己洞察を促すための集団心理療法④リーダー体験とスーパーヴィジョン
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

グループ活動の実践が中心となるので、メンバーとの相互の交流や発言など積極的に講義に関わる姿勢が求められる。身体を動かすのでそれにふさわしい服装で参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ活動への参加態度、グループ体験報告を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

【参考文献】

「グループサイコセラピー」 アーヴィン・D・ヤーロム、ソフィア・ヴィノグラードフ（共著）川村優（訳）金剛出版

社会心理学特論

担当教員 中村 完

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域の中での「自己」、「対人・社会的認知」、「帰属過程」、「文化と社会行動」、「集団行動」、「社会規範」等の諸テーマに関連させて、沖縄の社会的・文化的現象をいくつか概観し、広く心理学的立場から考察したい。その際、このような現象を理解するために有効と思われる理論や方法論等を探索する。本特論においては、「沖縄人の意識構造論」、「社会化とモダル・パーソナリティ」、「文化的自己観論」、「自己カテゴリー化論」、「社会的アイデンティティ論」等について学習する。次に、上述の社会的現象に類似する社会的問題等を、学生自らが提起し、それについて上述の理論や他の心理学的立場から受講者全体で考察していく。この過程を通して、沖縄の社会的問題の改善の方策に接近したい。

【授業の展開計画】

また、社会心理学と臨床心理学との連携について考察する。なお、第1回のオリエンテーション時に受講生との話し合いによって展開計画が若干変更されることもある。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、社会心理学とは、その位置
2	社会心理学の主なテーマ
3	社会心理学的に見る沖縄の社会的・文化的現象
4	沖縄人の意識構造論
5	県民性とモダル・パーソナリティ
6	文化的自己観論
7	自己カテゴリー化論
8	社会的アイデンティティ論（1）
9	社会的アイデンティティ論（2）
10	社会心理学と臨床心理学との連携
11	学生による課題発表
12	学生による課題発表
13	学生による課題発表
14	学生による課題発表
15	学生による課題発表
16	本特論の総括的考察 学んだ事のまとめ（テストに代わって）

【履修上の注意事項】

- ◎ 次回の予告テーマについて予習すること。
- ◎ 毎回のディスカッション時に自分の考えを述べること

【評価方法】

評価は、1) 出席点、 2) 課題発表の内容、 3) ディスカッションへの参加度、等から総合的に行う。

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献】

(1) 東江平之(1991)「沖縄人の意識構造」沖縄タイムス社、(2) M. A. ホッグ/D. アブラムス (吉森護・野村泰代 訳) (1995)「社会的アイデンティティ理論—新しい社会心理学体系化のための一般理論—」北大路書房、(3) 細江達郎・菊池武剋(2009)「社会心理学特論」放送大学教育振興会、(4) 間場 寿一[編](2006)「社会心理学を学ぶ人のために」

社会福祉原理特論

担当教員 保良 昌徳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、現在の社会福祉政策や社会福祉実践に関わる基本的な部分に目を向け、(社会)福祉学の現状と今後の展望について考察する。特に、社会福祉全体を支える基本的視点や実践の原理的な側面について、批判的に捉え直すとともに、福祉学に関わる諸理論への理解を深め、新たな地平の模索をも試みる。

【授業の展開計画】

*一年を大きく5つに分け、以下のテーマに取り組む

1. 福祉学の成立要件について
2. 社会福祉の代表的理論とその課題
3. 福祉国家の国際動向と日本のあり方
4. 社会福祉実践理論を今後の課題
5. 21世紀の日本の社会福祉の動向と展望

【履修上の注意事項】

1. 受講生は、各テーマについて事前にレポートを提出こと
2. 個別に発表し、討論を通して考察を深めること
3. 全体の総括を通して、各自の視点を整理する
4. 再度、各自のレポートを整理し提出すること
5. 年度末に報告書を作成する

【評価方法】

*レポートの提出状況とその内容、討論への参加とその内容、出席状況および最終報告書の内容等をもとに総合的に評価する。

【テキスト】

*必要に応じて提示する。

【参考文献】

*必要に応じて提示する。

社会福祉制度特論

担当教員 北島 英治

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ソーシャルワークの専門価値、専門機能、専門知識、専門技術について学ぶ。原著、原論文に基づき、その歴史的経緯、発展過程を概観し、現代のソーシャルワーク実践に関する研究について、ビデオやDVDの視聴覚機器を利用し、演習形式を取り入れ、一緒に議論し、深めていきたい。

【授業の展開計画】

- 1) オリエンテーション
- 2) ソーシャルワークの歴史的概観
- 3) 社会福祉とソーシャルワーク
- 4) ソーシャルワークの方法の発展（ケースワーク、グループワーク等）
- 5) ソーシャルワークの分野
- 6) ソーシャルワークの価値
- 7) ソーシャルワークの機能
- 8) ソーシャルワークの理論（I）
- 9) ソーシャルワークの理論（II）
- 10) ソーシャルワークの技術（I）
- 11) ソーシャルワークの技術（II）
- 13) ソーシャルワーク実践の事例研究（I）
- 14) ソーシャルワーク実践の事例研究（II）
- 15) スーパービジョン
- 16) まとめ

【履修上の注意事項】

視聴覚機器を使い、演習や双方向の議論と話し合いをしていきたい。

【評価方法】

最後に、「ソーシャルワークについての自分の考え」をレポートとして提出する。

【テキスト】

各講義において、プリントや資料を配布するので、特定のテキストは使用しない。

【参考文献】

『ソーシャルワーク論』北島英治、ミネルヴァ書房

社会倫理学特論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会倫理学とは、人間のありようについて社会との関わりで哲学的な考察をおこなうものである。この授業では、「ひととひととがささえあうことで実現される幸福」もしくは「ひととひととがささえあうことで幸福を実現すること」としての「社会福祉」の原理と倫理について、テキストの批判的読解と受講者の議論により、多面的かつ根底的な検討を試みる。

【授業の展開計画】

(A) 森岡正博『「ささえあい」の人間学—私たちのすべてが「老人」+「障害者」+「末期患者」となる時代の社会原理の探究』および『ケアの社会倫理学—医療・看護・介護・教育をつなぐ』の輪読と(B) 社会福祉の基本理念に関する探索的調査研究の二本柱で授業を展開する。

(A)について

受講者は交替で一章ずつ分担してレジュメ (A4、1~2枚、40字×30行) をつくり、概要を報告する。

報告担当者以外の受講者は批判的コメント (A4、1枚、40字×10行程度) を準備する。

(B)について

受講者で分担して、自己決定、人間の尊厳、隣人愛、その他の社会福祉の基本理念について、その系譜と現状を調査・報告し、「ささえあい」という社会福祉の原理との関連について、議論する。

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加して学問的なスキルと問題意識の錬磨をめざす気概をもった受講生をのぞむ。

【評価方法】

報告、レジュメ、コメント、議論への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

森岡正博編著『「ささえあい」の人間学』(法蔵館、1994年)

川本隆史編著『ケアの社会倫理学』(有斐閣、2005年)

【参考文献】

授業中に、適宜、紹介する。

障害者福祉特論

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国内外の障害者施策の発展の歴史を踏まえた上で、今日、障害者が直面している諸問題について議論する。また、主要先行研究を整理分析する。受講生の関心に合わせた文献も取り扱う。

講義では、障害の「社会モデル」に基づいて批判的に研究を行う。

【授業の展開計画】

講義のオリエンテーション時に示す

【履修上の注意事項】

先行文献・論文を幅広く読むこと。

講義だけでなく、積極的にシンポジウムや学会に出席すること。

【評価方法】

①事前学習課題の取り組み、②講義時の積極的参加の状況、③レポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】

随時、論文、資料、文献を紹介していく

【参考文献】

- ① コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。
- ② 杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他

障害児（者）心理学特論

担当教員 -財部 盛久

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は発達障害児者の発達および心理学的な特徴について解説し、臨床心理学的介入について現在適用されている介入方法について検討する。さらに発達障害領域における臨床心理士の役割について検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	発達障害総論 対応の概要 特性と障害を分けて考える
3	発達障害の心理アセスメント（1）乳幼児期
4	発達障害の心理アセスメント（2）学童・心理検査
5	発達障害の心理特性（1）愛着の問題
6	発達障害の心理特性（2）コミュニケーション
7	発達障害の心理特性（3）二次障害
8	発達障害の心理特性（4）虐待
9	発達障害の心理特性（5）非行
10	発達障害への臨床心理学的介入（1）
11	発達障害への臨床心理学的介入（2）
12	発達障害への臨床心理学的介入（3）
13	発達障害への臨床心理学的介入（4）
14	発達障害と臨床心理士（1）
15	発達障害と臨床心理士（2）
16	試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。したがってディスカッションの際、受講生は積極的に参加して欲しい。

【評価方法】

試験および提出されたレポートにより評価する。レポートは授業ごとに提出するものと学期末に提出するものがあるのが、提出されたレポートを総合的に評価する。評価の際は試験、レポートとも基本的な知識に基づいて受講生の考え方が展開されていることを重視する。

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

- ・子どもの理解と支援のための発達アセスメント 本郷一夫編 有斐閣選書 ¥1,800+税
- ・自閉症の関係障害臨床 小林隆児 ミネルヴァ書房 ¥3,500+税

心理学研究法特論

担当教員 木村 堅一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学で扱う研究対象はかなり幅があるが、実は共通点も多い。どの領域の心理学者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ心理学の「研究法」に焦点を当てる。特に、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。

【授業の展開計画】

第 1 回	コース紹介	
第 2 回	科学とは何か	
第 3 回	科学についての方法	
第 4 回	仮説を発展させる	
第 5 回	数的表現による行動の記述	
第 6 回	推測統計	
第 7 回	仮説を検討する	
第 8 回	統制	
第 9 回	実験の論理を応用する 1	
第 10 回	実験の論理を応用する 2	
第 11 回	実験の生態学	
第 12 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 1)	
第 13 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 2)	
第 14 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 3)	
第 15 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 4)	講義のまとめ

【履修上の注意事項】

対話と討論が必須である。出席よりも参加が重要である。

【評価方法】

- 1) 授業への取り組み (50%) : 授業での発表・質疑応答・積極的な参加
- 2) 課題レポート (50%)

【テキスト】

随時資料を配布する。

【参考文献】

- 1) W. J. レイ (著) 岡田 圭二 (訳) 2003 エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房
- 2) 高根正昭 1979 創造の方法学 (講談社現代新書553) 講談社

心理統計法特論

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

受講生の多くは、福祉や臨床の分野で仕事をすると思いますが、日々の実践と実証的研究は車の両輪のようなものです。本授業では、実証的研究を行う上での有力な手法である統計的データ解析法について、心理統計学の考え方も概説しながら、演習中心に学んでいきます。目指すのは、受講生がなるべく独力で、一通りの主要なデータ解析法が扱えるようになることです。受講生各自の研究テーマや保有しているデータとできるだけ関連づけながら、実際にコンピュータと統計パッケージ(SPSS等)を用いた演習に力を入れる予定です。

【授業の展開計画】

- 1 週目：履修登録・オリエンテーション：本講義の進め方の説明等、心理学の研究法とは？
- 2 週目：研究デザインとデータ解析の関係
- 3 週目：度数の違いの検定～ χ^2 乗検定と残差分析～
- 4 週目：平均値の差の検定(1)～1要因分散分析～
- 5 週目：2要因分散分析における主効果と交互作用とは？
- 6 週目：平均値の差の検定(2)～2要因分散分析：被験者間計画～
- 7 週目：平均値の差の検定(2)～2要因分散分析：被験者内計画～
- 8 週目：相関関係の分析～相関係数と連関係数～
- 9 週目：因果モデルに基づく説明と予測のための方法～重回帰分析とパス解析～
- 10週目：変数間の背後にある要因を探る方法～因子分析～
- 11週目：多くの変数を少数の指標にまとめる方法～主成分分析～
- 12週目：サンプルデータを用いた統計解析の実際(1)～実験研究データの解析演習～
- 13週目：サンプルデータを用いた統計解析の実際(2)～調査研究データの解析演習～
- 14週目：データ解析総合演習
- 15週目：まとめ
- 16週目：学期末試験 (or 学期末課題)

【履修上の注意事項】

- ・学期末課題は、学期末試験、または、学期末レポート課題を課す予定です。
- ・授業への積極的な参加を求めます。分からないことがあれば、遠慮せず質問して下さい。
- ・学部において、心理統計学または統計学に関する単位を修得済であることが前提です。

【評価方法】

- ・評価の内訳は、出席状況が15%、参加態度が40%、学期末課題が45%のウェイトです。
- ・授業への出席状況、参加態度、学期末課題を総合して評価します。但し、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は、不定期のレポート課題等、演習課題の成績を中心に評価します。また、学期末課題は試験を実施する場合参考書等の持込みを「可」として行う予定。レポート課題の場合は、授業内で詳細を指示する

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に進める予定です。

【参考文献】

- 古谷野互 (1988). 数学が苦手な人のための多変量解析ガイド 川島書店
 小塩真司 (2005). 研究事例で学ぶSPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 東京図書

心理療法特論

担当教員 一児島 達美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

システム家族療法を中心にブリーフセラピー及びナラティブセラピーに共通する人間の心と行動に関する理論と臨床実践方法についての理解を深める。

システム家族療法、ブリーフセラピー、ナラティブセラピーと称される3つのアプローチは、ある種共通した遺伝子をもつ心理療法群であり、いずれも私たちが慣れ親しんでいる人間の心と行動に関する従来からの臨床心理学的な見方や実践方法とは一線を画すものである。しかし、その目指すところは、セラピストとクライアント・家族間の社会共同的かつ創造的な営みにある。学生にはまずこの点についての理解を深めていただきたい。

【授業の展開計画】

第1回：導入

2～3：理論編①（「個人の心と行動をシステム論的に見る」ということ）

4～5： 〃 ②（「言葉が心をつくる」ということ）

6～7： 〃 ③（「無知の姿勢」ということ）

8～9：実践編① シナリオロールプレイ

10～11：実践編②（家族面接DVDの視聴と討論）

12～14：実践編③（家族面接DVDの視聴と討論）

15回：まとめ

【履修上の注意事項】

3分の2以上の出席を条件とする。学生には毎回積極的な討論が求められる。

【評価方法】

受講態度（30%）とレポート（70%）により評価する。

【テキスト】

【参考文献】

必要な資料は随時配布する。

児童福祉特論

担当教員 神里 博武

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、いじめや子育て不安・虐待等が増える一方、出生率の低下傾向に歯止めがかからず、わが国の児童や家庭福祉を取り巻く状況は益々厳しさを増している。本講は、このような児童・家庭福祉の今日的な課題を「児童の最善の利益」という視点から検討し、少子・高齢社会における児童福祉のあり方について考察する。具体的には、児童福祉に関する基本的文献と児童虐待等の今日的な課題についての文献・調査研究を行う。

【授業の展開計画】

児童福祉に関する基本的な文献を読んでその報告を中心に進める。

1回 オリエンテーション

2回 児童福祉の現状

3回—4回 糸賀一雄と福祉の思想

5回—7回 子どもの権利に関する文献研究

11回—14回 児童虐待に関する文献研究

15回 まとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況、レポート、発表等を総合的に評価

【テキスト】

【参考文献】

その都度、紹介する

人格心理学特論

担当教員 針塚 進

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

臨床心理学的援助に不可欠な人間理解の基礎となる人格理論について理解することを目的とする。さらに、授業の後半では、クライアントのパーソナリティ理解を含めた見立てと、それに応じた援助技法について習得する。

【授業の展開計画】

以下のテーマの順に講義を行い、その後受講者全員で議論する。

人格障害と治療・心理的援助

- 第1回 : 人格とは
- 第2回 : 人格研究の理論と方法①
- 第3回 : 人格研究の理論と方法②
- 第4回 : 人格研究の理論と方法③
- 第5回 : 人格の形成とその障害①
- 第6回 : 人格の形成とその障害②
- 第7回 : 人格の形成とその障害③
- 第8回 : 人格査定の理論と方法
- 第9回 : 人格査定の理論と方法
- 第10回 : 高齢者の人格特徴と心理的援助
- 第11回 : 統合失調症者の人格特徴と心理的援助
- 第12回 : 障害児者の人格特徴と心理的援助
- 第13回 : 心理的援助の実際①
- 第14回 : 心理的援助の実際②
- 第15回 : まとめ

【履修上の注意事項】

特性理論、精神力動論、人間学的理論、学習理論の基本的な人格理論について各自復習しておくこと。

【評価方法】

出席および授業における議論への参加およびレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

精神医学特論

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神医学の歴史と現状、医学における位置づけと領域、精神疾患の基礎知識（疾患の歴史と概念、疫学、成因、症状と経過、診断と治療、予後等）について学び、精神医学的援助と臨床心理学的援助の比較、協働していくための要点を修得することを目的とする。

【授業の展開計画】

第1回	統合失調症（1）	第2回	統合失調症（2）	第3回	統合失調症（3）
第4回	気分障害（1）	第5回	気分障害（2）	第6回	気分障害（3）
第7回	発達障害（1）	第8回	発達障害（2）	第9回	発達障害（3）
第10回	高齢者の精神障害（1）	第11回	高齢者の精神障害（2）		
第12回	思春期・青年期の精神障害（1）	第13回	思春期・青年期の精神障害（2）		
第14回	精神障害と犯罪（1）	第15回	精神障害と犯罪（2）		
第16回	精神医学と臨床心理学との協働				

【履修上の注意事項】

各領域の専門講師（精神科医）によるオムニバス講義である。

【評価方法】

出席状況、講義への参加態度、学期末試験（レポート）等で評価する。

【テキスト】

講義資料は随時配布する。

【参考文献】

石丸昌彦・仙波純一著 「精神医学特論」（財）放送大学教育振興会 ほか

地域ケア特論

担当教員 関原 宏昭

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の到達目標およびテーマは以下の通りである。

- ①地域ケアシステムの内容を理解し、それを説明することができる。
- ②地域社会でおきる問題点は何かを把握することができる。
- ③地域社会の問題点解決の方策を論理立てて考え、主体的な行動につなげていくようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域保健福祉の今
2	地域保健・福祉・医療 場の変遷（日本・海外）
3	主体的な取り組み～意識づくり 1
4	主体的な取り組み～意識づくり 2
5	主体的な取り組み～人づくり 1
6	主体的な取り組み～人づくり 2
7	主体的な取り組み～プログラムづくり 1
8	主体的な取り組み～プログラムづくり 2
9	健康格差社会
10	新しい公共
11	地域のソーシャルキャピタルの可能性
12	地域のソーシャルネットワークの可能性
13	総合的な地域づくり 1～フィールドワークあり
14	総合的な地域づくり 2
15	総合的な地域づくり 3
16	

【履修上の注意事項】

一つひとつのテーマについて、意見交換（自分だったらどう思う）をしながら進めていく。

【評価方法】

- ①出席状況
- ②授業への参加（発言・レポート提出）状況
- ③①②を総合的に評価する

【テキスト】

【参考文献】

講義討論資料は、随時提供、紹介する。

人間福祉特殊研究 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のねらいは以下のとおりとする。

1. 研究方法に関する理解
2. 各自の研究テーマの確定
3. 専攻研究まとめと研究の位置づけの明確化
4. 研究計画(調査方法・時期、分析方法など)の確定
5. 基礎調査等の実施

【授業の展開計画】

・授業と個別指導を取り混ぜながら行う。・前期では、研究の意味や基本的視点、研究に必要な情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認する。・論文購読、学会参加、実際の研究活動や発表に参加を通して研究活動についての理解を深める。・研究フィールドの確定と現場への参加を通して、実践例・事例等への接触と観察、基礎的な資料の作成を行う。・学会や研究会への参加を通して研究活動に取り組む。・講義終了までには、研究計画を完成させる。

<前期>

第 1 回：オリエンテーション

第 2 回：各自の研究テーマの紹介。

第 3 回：研究課題とフィールドの明確化。

第4～8 回：研究の意味と基本的視点、情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認

第 9 ～10回：検索、方法の実際、論文購読。個別指導。

第11～14：中間報告(1回目)個別発表、全体検討、課題の明確化、個別指導。

第15回：前期のまとめ。

夏季休暇中：学会参加を奨励。

<後期>

第16～18回：中間報告会(2回目)個別発表、全体検討、課題の明確化。

第19～24回：先行研究・個別研究指導。

第25～28回：中間報告会(3回目)個別発表、全体討議、課題の明確化。

第29～30回：まとめ、提出、報告。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

①出席、レポート提出。②クラス討論、授業内での発表。③研究テーマの確定および取組状況。④研究発表報告の内容と達成度。

出席およびレポート提出状況を重視する。

【テキスト】

【参考文献】

適宜、論文等を紹介する。

人間福祉特殊研究Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文を作成し、完成させる。

【授業の展開計画】

第3semester

- ①基本文献の読解／本調査の結果に関する考察
- ②論文構成の吟味→論理的一貫性の検討
- ③論文概要の作成→修士論文中間発表の準備
- ④論文全体の草稿を作成

*夏季休暇中の研究計画とsemesterのまとめを提出

第4semester

- ①内容の独創性・論理的一貫性の再検討
- ②文献読解・調査手法などの妥当性の点検
- ③書式の点検
- ④論文の完成→最終試験・最終発表会の準備

【履修上の注意事項】

年度当初に前年度までの研究実績（論文、レポート、その他）のコピーを提出すること。

【評価方法】

授業への実質的なかわり、提出物の内容、発表会でのプレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

授業中に適宜、紹介する。

人間福祉特論

担当教員 一新垣 誠正

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人が幸福を求めて生きるということは、至極当然のことである。しかしながら、幸福といってもいろいろな幸福が考えられる。ところで、動物でもある人間は当然それとしての快を求めるが、そうした快はそのまま幸福なのであるのだろうか。では、人間が人間として生きる時の幸福などというものがあるのだろうか。あるとすれば、それはどのようなことであるのだろうか。福祉と密接に関連させて、人間および人間の幸福について考えていくのが、このクラスの目的である。

【授業の展開計画】

このクラスでは、M. ブーバー、ヘシオドス、プラトン、アリストテレス、デカルト、カント等の思想を取り上げ、人間が善く生きる [=福祉 well-being] ことについて考えたい。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、質疑応答、定期試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

そのつど、教室で紹介する。

犯罪心理学特論

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

非行・犯罪のある者に対する的確な鑑別診断技法の学習及び心理教育・臨床心理学的援助技法の習得を目指す。

【授業の展開計画】

- 1 非行・犯罪を理解する基礎を学ぶ
- 2 非行・犯罪理論と非行・犯罪臨床
- 3 社会と個人の相互作用過程と非行・犯罪
- 4 非行・犯罪臨床と刑事政策
- 5 資質鑑別事例研究1（財産犯・経済犯罪）
- 6 資質鑑別事例研究2（暴力犯罪）
- 7 資質鑑別事例研究3（性暴力犯罪）
- 8 資質鑑別事例研究4（犯罪深度・要保護性）
- 9 資質鑑別事例研究5（異常心理学と犯罪・精神鑑定）
- 10 非行・犯罪とカウンセリング
- 11 非行・犯罪のある人への心理教育及び心理臨床的援助法
- 12 薬物依存症者に対する集団精神療法
- 13 非行・犯罪臨床と被害者支援
- 14 非行・犯罪臨床と犯罪報道
- 15 まとめ
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、レポート内容、授業での発言・発表内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- ①犯罪心理学（大淵憲一・培風館）
- ②図解雑学 犯罪心理学（細江達郎・ナツメ社）

保健医療政策特論

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義のねらいは2点である。①我が国における医療政策、保健政策の現状を理解し、問題点、今後の課題を探究する。②我が国の医療提供構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療の現状①医療資源（全般）	18	医療提供構造①：平均在院日数短縮化
3	医療資源関連論文抄読（医療全般）	19	医療提供構造②：急性期型病院
4	我が国の医療の現状②医療資源：人	20	医療提供構造③：クリティカルパス
5	医療資源関連論文抄読（医療従事者）	21	医療提供構造③：医療連携（病・病）
6	我が国の医療の現状③医療資源：物	22	医療提供構造④：医療連携（病・診）
7	医療資源関連論文抄読（医療施設）	23	医療提供構造⑤：医療連携（モール）
8	我が国の医療の現状④医療資源：財	24	医療提供構造が変わる！？
9	医療資源関連論文抄読（医療施設）	25	地域医療計画①概論
10	診療報酬・・・出来高から包括へ	26	地域医療計画②沖縄県
11	DPC①制度導入経緯	27	地域連携：医療の出口に福祉あり
12	DPC②DPCとは	28	病院完結型医療から地域完結型医療へ
13	DPC③DPCとは	29	クリティカルパス①：院内パス
14	DPC制度を巡る問題及び課題	30	クリティカルパス②：地域連携パス
15	DPC制度を巡る問題及び課題	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

医療提供構造に関心を持ち、新聞、文献等を精読すること。また、講義形式ではあるが討論を中心とするため積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出、討論への参加について総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。その都度資料を配布する。

【参考文献】

「日本医事新法」（研究室定期購読）、「病院」（図書館所蔵雑誌）、厚生労働白書、国民衛生の動向など医療関連雑誌・図書等

ホスピスケア特論

担当教員 上間 一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の到達目標およびテーマは以下の通りである。

- ① 「ホスピス」を理解し、それを説明することができる。
- ② 臨死患者に対する心身両面からのケアを考えることができ、実践することができる。
- ③ 「ホスピスケア」のあり方を理解し、また、チームケアの重要性を説明することができる。
- ④ ホスピスケアに重要なコミュニケーションスキルを実践する

【授業の展開計画】

【授業の概要】

死に直面する患者への「ケア」をめぐる問題については、「延命治療」「安楽死」「緩和ケア」などといった多くの議論がなされている。本講義ではターミナルケアを必要とする患者およびその家族の心のケアに焦点をあて、ターミナルケアを必要とする患者・家族にとって今必要とする心身両面からの「ケア」について論及する。また、ホスピスケアチームのあり方、ホスピスにおけるコミュニケーションスキルについても実践的な講義を展開する。

第1回：オリエンテーション

第2回～第15回

- 1) ホスピス講座テキストに添って講義を展開する。
- 2) ホスピスチームケアの実践
- 3) 受講生分担で学術雑誌、ホスピス関連図書等に掲載されたホスピスケアを中心とした掲載論文を精読し、討論する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

- ①出席状況
- ②授業への参加（発言・レポート提出）状況
- ③①②を総合的に評価する

【テキスト】

【参考文献】

- ①「ホスピス講座」新星出版
- ②その他参考資料として、講義時間に随時紹介する。

臨床心理学特殊研究 I A

担当教員 上田 幸彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

修士論文を書くことで、臨床における科学的見方を身につけ、将来の科学者－実践家モデルとなる下地を作ること
をねらいとする。2年間で修士論文を書き上げるためには、1年時は準備期間となるが、この1年間で、臨床心理学
における研究領域と研究方法、テーマ設定、仮説構築と検証方法、データ収集の方法、研究における倫理的
配慮、統計的技法の選択、文献検索の方法、科学論文の書き方を習熟しておくことが必要である。
各自の発表と全員でのディスカッションを通して、各自の中にあるアイデアを具体的で実現可能な、かつ臨床的
に意義のある研究テーマとして固めていくことを学ぶ

【授業の展開計画】

前期ではまず、各自の卒業論文の概要と関心のある領域・テーマについて発表・ディスカッションを行いながら
、関心のある研究領域の拡大を行う。

次にその中から各自のテーマに関連する論文を読み、論点を整理し発表する。これを繰り返しながら各自の研究
テーマと研究目的を絞り込んでいく。

後期において、研究目的を達成するための方法論の検討を行い、研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

他者の発表を聞き討議することは、アイデアを生み出し、自らの考え明確にし、そして批判的思考を養うために
不可欠である。そこですべての授業に出席することが前提である。また一斉指導のときに各自が十分な発表が行
えるように個別指導は随時行う。2年時に入ってからすぐにデータ収集ができるために、1年時に授業時間外での文
献研究、発表準備に十分時間をかけることが必要となる。英語の文献を速く多量に読む力が要求される。また2
年時にデータ収集・修士論文作成に没頭できるように、1年時から体制を整え始めることが必要である。

【評価方法】

毎回の発表の内容と、取り組みの積極性、討議での積極性によって総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

臨床心理学の研究の技法 下山晴彦 編 (福村出版)

臨床心理学特殊研究 I B

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「実証に基づく臨床心理学」の考え方の基に、臨床実践における科学的思考の訓練が重視されている。臨床心理士となるためには、こうした科学者—実践家モデルを身につけることが強く要請される。このための教育のひとつとして、科学性のある心理学研究論文としての修士論文の作成課題が準備されている。これは2年間で完成することになっている。1年目は、文献調査を通して、臨床心理学の理論、関連領域、研究方法等を学ぶ。また、研究テーマの設定、仮説の構築、検証方法と資料収集、統計技法の習得、研究における倫理的配慮など、科学的論文の書き方を習得する。

【授業の展開計画】

- (1) 臨床社会心理学関連やポジティブ心理学関連の分野を可能な限り学ぶ
- (2) 各自、関心のある臨床心理学の理論や関連分野について発表し、集団討議を通して、理解を深める。
- (3) 各自の関心のあるテーマを絞込み、関連する先行研究文献を熟読し、論点を整理する。
- (4) 研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

一斉指導と個別指導を併用する。一斉指導への参加は、互いの理論、研究方法の理解を深めるための学習の場として、また、集団討議に慣れるとか、批判的思考を培う場として有用であるので、すべての授業に出席することが前提である。2年目にリサーチ等、修士論文作成が効率よくできるように体制を整えることに留意したい。

【評価方法】

発表内容、取り組みの姿勢と課題処理の進捗状況、討議行動など、総合的に評価する。

【テキスト】**【参考文献】**

適宜、紹介する。

臨床心理学特殊研究ⅡA

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この1年間で修士論文を完成させることを通して、データ収集法、データ収集にける倫理的配慮、データ整理、統計的手法、論文執筆における科学論文の構成、引用の仕方、をマスターする。
修士論文完成後の発表会の前には、リハーサルを行い、プレゼンテーションの仕方、学会発表の仕方を身につけることをねらいとする。
論文完成・発表をとおして臨床心理学における研究の意義を体得することが最大のねらいである。

【授業の展開計画】

1年時に作成した研究計画(中間報告1)に基づき予備調査を行い、その結果を報告し(中間報告2)、本調査を前にして研究計画の問題点・修正点を明らかにし。修正する。

また夏休み前に、データ収集のフィールドとの調整、被験者との調整を終らせておく。

夏休みに入ったらすぐにデータ収集に取りかかる。またデータ収集と同時に可能な部分からデータ整理を開始する。収集されたデータに基づき、必要な統計的検定を行い、結果の整理を行う。

11月末をめどに、目的・方法・結果の下書きを完成させ、報告する(中間報告3)。それに基づき討議する。

討議をもとに修士論文を完成させる。

修士論文完成後、スライドあるいはポスター作成を行い、学会形式での予演(報告4)を行う

【履修上の注意事項】

他者の発表に対して研究的視点から積極的な批評を行うこと。毎回の中間報告に十分な発表ができるためには、授業以外の時間をいかに効率よく使うかがカギとなる。

随時、個別指導を行う。修士論文完成には、膨大な時間とエネルギーが必要である。この1年間、生活の第一優先事として取り組み続けられるように体調管理、スケジュール管理を徹底して行うことが求められる。

【評価方法】

提出された論文の内容と作成過程での取り組みの姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル アメリカ心理学会著 江藤裕之他訳 医学書院

臨床心理学特殊研究ⅡB

担当教員 山入端 津由

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学特殊研究ⅠBで準備したことに基づき、理論・仮設の点検、調査実施方法の準備、そして、調査実施を行い、調査結果の整理等を経て修士論文の作成に取り組む。論文執筆過程において、科学論文の作成方法を体験的に学ぶ。また、修士論文完成後の発表会を通して、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。こうした一連の作業過程を通して、科学者－実践家モデルの基礎を築く。

【授業の展開計画】

- (1) 研究実施計画の再点検を行う。先行研究の整理、仮設、検証方法等について、現実課題に沿っているかどうかのチェックを行う。その結果について中間発表を行う。
- (2) 調査方法を確立し、作成・準備を行う。つまり、予備調査、本調査形式をとるか、あるいは一時調査、二次調査という形式で行うかなど。その時点で調査資料の整理方法、統計資料としての処理法などもはっきりさせておく。
- (3) 調査を実施し、資料の処理を行う。
- (4) 修士論文の作成に着手する。仮説検証、先行研究の流れにおいて、調査結果の有する意味を明確にしながらか、討議をきちんと書きあげ、修士論文を完成させる。
- (5) 完成後、スライドやパワーポイント等を用いた発表の準備、リハーサル等を行う。
- (6) 学会形式のような発表を行う。

【履修上の注意事項】

中間発表や共同で討議を行う場合は、積極的に研究的支店から討議意見を述べるようにする。すなわち、研究上の批評ができるスキルを学ぶようにある。個別指導の機会を有効に活用できるように毎日の生活時間の管理をきちんとしておく。

【評価方法】

提出された修士論文について、主査と副査を中心に査読と口頭試問を行い、その結果を成績に反映させる。

【テキスト】

【参考文献】

適宜、紹介する。

臨床心理学特論 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理士を目指す学生の土台となる講義であり、臨床心理学の定義や歴史、日本・諸外国における臨床心理士資格制度、臨床心理学に基づく人間理解・援助の方法、さらに、今後の展望や倫理問題などについて学ぶ。

【授業の展開計画】

- 第1回～第2回 : 臨床心理学の定義と独自性
- 第3回～第4回 : 臨床心理学の歴史と成立
- 第5回～第6回 : 臨床心理士の養成と課題
- 第7回～第8回 : 臨床心理学における人間理解の方法
- 第9回～第10回 : 臨床心理学に基づく援助の方法
- 第11回～第12回 : 臨床心理学に基づく実践活動・研究活動・専門活動
- 第13回～第14回 : 臨床心理士の職業倫理
- 第15回～第16回 : 臨床心理学の課題と展望

【履修上の注意事項】

学部における基礎的な臨床心理学の知識・技能を持っていることを前提に講義を進める。あらかじめ文献を調べた上で講義に臨み、討論には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、討論への参加態度や発言内容、提出されたレポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

下山晴彦（著）「これからの臨床心理学」東京大学出版会

【参考文献】

大塚義孝（編）臨床心理学全書1「臨床心理学原論」誠信書房
下山晴彦・丹野義彦（編）講座臨床心理学1「臨床心理学とは何か」東京大学出版会

臨床心理学特論Ⅱ

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

非行や犯罪のある人に対する、臨床心理面接と心理テストを用いたアセスメントによる資質鑑別について、事例資料を検討しながら学ぶ。また、心理鑑定や精神鑑定についても言及する。さらにこれらに基づいて臨床心理学的、教育的支援について検討する。

【授業の展開計画】

- 1 犯罪や非行のある人に対する資質鑑別
- 2 同資質鑑別で援用されている背景理論
- 3 資質鑑別のための言語面接法
- 4 発達軸と相互作用軸によるライフヒストリーの記述と分析法
- 5 同資質鑑別と行動観察
- 6 行動観察法—自由観察と操作的観察
- 7 心理アセスメント
- 8 心理テストとテストバッテリー
- 9 非行種別における資質鑑別
- 10 身体暴力と性暴力犯罪の資質鑑別
- 11 経済犯罪、ホワイトカラー犯罪と資質鑑別
- 12 薬物犯罪と資質鑑別
- 13 犯罪・非行と心理臨床的援助
- 14 精神鑑定
- 15 犯罪と異常心理
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

非行・犯罪心理学の基礎知識が必要である。

【評価方法】

出席、受講態度、報告内容、討議での発言回数と内容等について総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜、紹介する。

臨床心理基礎実習

担当教員 山入端 津由・平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学内外での臨床心理実習を行う為に必要となる、心理臨床の倫理や、臨床心理面接、臨床心理査定などの基礎的知識と基礎的技能の習得を目的とする。ロールプレイング、ディスカッションを通して体験的に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理臨床実践の基本事項①	18	学外基礎実習の報告①
3	心理臨床実践の基本事項②	19	学外基礎実習の報告②
4	心理臨床実践の基本事項③	20	心理臨床面接のロールプレイ①
5	心理臨床の面接の基本的態度	21	心理臨床面接のロールプレイ②
6	心理臨床面接の応答技法①	22	プレイセラピーと箱庭療法について
7	心理臨床面接の応答技法②	23	プレイセラピーのロールプレイ①
8	心理臨床面接の応答技法③	24	プレイセラピーのロールプレイ②
9	応答技法のロールプレイ	25	心理検査について
10	インテーク面接について①	26	心理検査のロールプレイ①
11	インテーク面接について②	27	心理検査のロールプレイ②
12	インテーク面接ロールプレイ①	28	面接の技法①
13	インテーク面接ロールプレイ②	29	面接の技法②
14	学外基礎実習についてのオリエンテーション	30	面接の技法③
15	インテークの記録と報告①	31	まとめ
16	インテークの記録と報告②		

【履修上の注意事項】

士1年次を対象とする。

臨床活動に直接関係する内容であるので、主体的、積極的に取り組むこと。
8～9月に3～5日の学外実習を行う。

【評価方法】

実習への出席や態度、提出物、学外の実習評価などを総合的に見て評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

臨床心理査定演習 I

担当教員 上田 幸彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近日本においても、臨床心理士に求められることが多くなっている神経心理学的検査法について学んでいく。特に神経心理学的検査が必要とされる高次脳機能障害に対する基本的な神経心理学検査バッテリーを実施し、それらの結果から援助に役に立つ所見を書けるようになることを目指す。これを基本として認知症高齢者、統合失調症、自閉症などの発達障害児に対しても神経心理学的所見に基づいた援助ができる力を養っていく。また検査結果から妥当な結論を導き出すためには、人間の認知機能についての理解が不可欠である。この領域は昨今新しい知見が集積されている。基礎的な知識から最新の情報までについても学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	神経心理学査定概論
2	認知機能概論①
3	認知機能概論②
4	認知機能概論③
5	認知機能概論④
6	WAIS-III①
7	WAIS-III②
8	WAIS-III③ プロフィール分析、結果の解釈と所見の書き方
9	WMS-R①
10	WMS-R②
11	リーバ-ミード行動記憶検査
12	注意機能検査①：TMT
13	注意機能検査②：PASAT
14	遂行機能検査 ウィスコンシンカードソーティングテスト
15	神経心理学的報告書の書き方
16	

【履修上の注意事項】

WAIS-Rの基本的な施行法は身につけていることを前提に授業を進める。授業は全体を通して漸次展開していく。途中を欠席するとその後の理解に支障を生じるため、全回出席が原則である。互いに検査者・被検査者となつての実習、講義以外の時間でのデータ収集も行うので主体的な受講態度が求められる。

【評価方法】

授業への出席状況とレポートによって評価する

【テキスト】

神経心理学的検査集成 レザック, M. D. 鹿島晴雄監修 創造出版

【参考文献】

臨床心理査定演習Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床場面において用いられることの多い心理検査を取り上げ、検査の適切な実施法、結果の整理法、解釈の基本的な考え方について体験的に学習した上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを身につけることを目的とする。

【授業の展開計画】

- 第1回 : 臨床心理査定概論
- 第2回 : 質問紙法の実施と解釈
- 第3回 : 作業検査法の実施と解釈
- 第4回～第7回 : 投映法検査の実施と解釈Ⅰ（ロールシャッハ法）
- 第8回～第10回 : 投映法検査の実施と解釈Ⅱ（TAT）
- 第11回～第12回 : 投映法検査の実施と解釈Ⅲ（SCT、描画ほか）
- 第13回～第14回 : 検査報告書の書き方
- 第15回～第16回 : テストバッテリーの組み方と総合所見の書き方

【履修上の注意事項】

演習の一環として、事前に必ずテスト体験をし、データを手元に用意した上で、各検査について、検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法等について各自整理しておくこと。

【評価方法】

発表、討論への参加態度、提出されたレポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

臨床心理実習

担当教員 上田 幸彦・井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本実習では、臨床心理学基礎実習の学習成果をふまえ、学内外での心理臨床活動の実際に触れながら、地域に根ざした心理臨床活動を展開するために必要な実践的知識や技法の習得をめざす。

【授業の展開計画】

1回～第4回：臨床心理学基礎実習で修得した面接技法などについて演習などを通して確認し、学外施設での実習に向けた演習を行う。

第5回～第15回：学外施設での実習成果をふまえ、実際の臨床場面の問題や課題について事例をもとに検討する。

第16回～第17回：前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。

第18回～第19回：実施施設担当者による「心理臨床の現場における臨床心理士の役割と活動」に関する講義

第20回～第30回：個別の事例について検討を行い、問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。

【履修上の注意事項】

学外施設の実習では、社会常識としての基本的な挨拶、振る舞い、ことば遣いや服装に十分気をつけること。またクライアントとの対応については、施設における実習担当者に相談し、クライアントに対して適切な対応を常に配慮すること。

【評価方法】

学外施設における実習評価および授業時に提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

【参考文献】

授業において、随時紹介する。

臨床心理事例検討実習 A

担当教員 上田 幸彦・前堂 志乃・平山 篤史・井村 弘子・山入端 津由

対象学年 1年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床では、基本的・一般的な理論・技法を学ぶことは大切なことであるが、それだけでは十分に役立つ援助を提供することはできない。心理的問題を抱える人の環境、歴史、特性は様々であり、その個別性に応じた援助が求められるからである。来談者の個別性を理解し、その人への適切な援助を柔軟に展開するためには、一つ一つの事例を様々な視点から検討することが不可欠である。この授業を臨床心理学領域の教員全員が担当する意義はここにある。この実習では心理相談室の事例の検討を通じて諸技法の適用する力を高めることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	事例検討①
3	事例検討②
4	事例検討③
5	事例検討④
6	事例検討⑤
7	事例検討⑥
8	事例検討⑦
9	事例検討⑧
10	事例検討⑨
11	事例検討⑩
12	事例検討⑪
13	事例検討⑫
14	事例検討⑬
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

心理相談室の実際の事例を検討する形式を取るため、心理臨床の専門家としての倫理を遵守し、責任ある態度で履修すること。事例検討A・Bは隔年開講とする。

【評価方法】

心理相談室で担当した事例を発表することが単位認定の条件となる（2年で3ケース以上を担当することがのぞましい。）

授業態度、事例報告および報告に対するコメントなどの総合的に判断し評価する。

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床心理面接特論 I

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理面接法について、児童期・思春期・青年期面接（いずれも、障がい児者、被虐待児者を含む）、境界例面接、親面接、集団面接、病苦の人々やターミナルケア中の人々の面接等、多様なクライアントに対する面接技能を学び、深める。また、クライアント・治療者関係の理解及びクライアントの理解に係る理論（人間モデル）についても言及する。さらにこれらの過程を通して心理療法家としての自覚を深める。

【授業の展開計画】

- 1～5 クライエントの理解モデルとアプローチ
- 6 児童期・思春期・青年期面接（いずれも、障がい児者、被虐待児者を含む）
- 7 境界例面接
- 8 親の面接
- 9 集団面接
- 10 病苦の人々の面接
- 11 ターミナルケア中の人々の面接
- 12 面接における傾聴とことば
- 13 臨床面接学の検討
- 14 妄想のある人の面接法について
- 15 総括とまとめ
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

受講生にクライアントの理解モデルについてまとめたのを報告してもらう。

【評価方法】

出席、受講態度、報告内容、討議での発言回数と内容等について総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床心理面接特論Ⅱ

担当教員 上田 幸彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年世界的に最も用いられることが多い認知行動療法に関わる面接技法を中心に学習する。また精神分析的アプローチ、クライエント中心療法などの各派との違いと各派に共通するものを探り、最近の流れである心理療法の統合について理解していく。

最終的に目指すことは、将来出会うであろう様々なクライエントに対して、最も有効なアプローチ法を見出し、していく力を高めることである。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 認知行動療法の基礎としての学習・問題行動・不適応行動
- 第3回 行動療法の主な技法：系統的脱感作、暴露反応妨害法、
- 第4回 応用行動分析
- 第5回 認知的アプローチ
- 第6回 認知行動的アプローチ基礎理論
- 第7回～第8回 認知行動療法の実際：抑うつ認知行動療法
- 第9回～第12回 他のアプローチとの比較、
- 第13回 心理療法の統合、多理論統合モデル
- 第14回～第15回 高次脳機能障害に対するアプローチ

【履修上の注意事項】

授業は全体を通して漸次展開していく。したがって欠席するとその後の授業の理解に支障が生じる。全回出席が前提である。各自が積極的に関連する文献を読み、発表することが求められる。

【評価方法】

【テキスト】

心理療法の諸システム 多理論統合的分析 プロチャスカ著 津田彰他監訳 金子書房

【参考文献】

老年健康科学特論

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本授業は、健康・疾病および加齢に関する項目について学ぶことを目的とする。健康管理システムにおけるソーシャルワークの役割、健康と加齢に関する社会的要因、高齢者がもたらす社会経済的影響に対する政策について学ぶ。主に、健康増進とリスク除去の方策のほか、健康維持アプローチと高齢者特有の健康問題にも焦点を当てる。授業で扱うテーマとして以下5点を設定する。

【授業の展開計画】

1. 高齢者の健康について基礎概念
2. 健康と老いに対するソーシャルワークの役割
3. 高齢者が直面している健康問題
4. 高齢者に対する健康政策と支援および計画
5. 健康長寿と加齢についての国際的研究

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	文化および民族と健康
2	健康長寿(Healthy Aging)の定義	18	世界の社会的弱者の健康について
3	健康長寿とソーシャルワーク	19	高齢者の健康政策のマクロ的影響
4	地域における保健活動と健康長寿	20	沖縄における長寿の課題 1
5	高齢者の健康に関わる社会的要因	21	沖縄における長寿の課題 2
6	高齢者の疾病について	22	沖縄における長寿の課題 3
7	加齢に伴う身体的健康問題	23	沖縄における長寿の課題 4
8	加齢に伴う精神的健康問題	24	沖縄における長寿の課題 5
9	長期介護について	25	世界の健康長寿の課題 1
10	介護者のストレスと健康	26	世界の健康長寿の課題 2
11	終末期ケアについて	27	世界の健康長寿の課題 3
12	スピリチュアリティと健康	28	世界の健康長寿の課題 4
13	ソーシャルワーク実践	29	世界の健康長寿の課題 5
14	健康増進と予防について	30	後期のまとめ
15	前期のまとめ	31	
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

個人発表をもとに授業の関連資料（学術雑誌、研究論文、政府発行白書、一般紙）、その他の資源を院生が収集する。

【評価方法】

出席・クラス討論・授業内での発表内容・授業終了時のレポートの内容。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

近藤克典『健康格差社会～何が心と健康を蝕むのか～』医学書院, 2005.
Berkman B. 『Handbook of Social Work in Health and Aging』Oxford Univ Press, 2006.
その他、適宜、論文等を紹介する。